

平成29年度地方創生推進交付金事業評価

○ 目次

- (1) とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略
- (2) 賑わいコンパクトシティ形成事業
- (3) 女性・若者活躍促進事業
- (4) 四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略

平成29年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 1

事業の名称	とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略						
事業の概要	徳島県等と連携して徳島市の「藍製品」をはじめ「木工・木製品」「食材・食品」等の地域産業の高付加価値化に向けた新商品の開発支援や域内消費の拡大、販路拡大に取り組む。	総合戦略基本目標	雇用創出数 5年間 (H27~H31) の累計で1,000人以上	実績値 (H28末)	実績値 (H29直近)	目標値 (H31末)	
		KPI (重要業績評価指標)	地域資源活用高付加価値商品数 (累計)	422人	570人 (H29.12時点)	1,000人	
			農工商連携により開発した商品数 (累計)	未実施	0商品 (H29.12時点)	30商品	
			補助金等を利用して販路拡大に結び付いた事業者数 (年間)	0商品 (H29確定値)	5商品 (H29確定値)	5商品	
事業期間	平成28年10月~平成33年3月		徳島市産食材取扱い認定店舗数 (累計)	21事業者	19事業者 (H29.12時点)	30事業者	
事業費	44,506千円			2店舗	7店舗(見込)	20店舗	
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)		取組の成果・課題		今後の方向性		効果	
地域産業の高付加価値化に向けた新商品の開発支援		KPIについては、平成30年2月末を目処に、藍プロダクト開発講座受講修了者である本市中小企業者名(9事業者)が製品開発を進めていることから、目標値である5商品を達成できる見込みである。 また、平成29年9月に展示会「rooms EXPERIENCE」に出展し、阿波しじら協同組合加盟事業者とロサンゼルスのレストランとのコラボレーションによる試作等を展示した。本市が民間雑誌の賞を受賞したほか、展示会をきっかけにコラボレーション先のブランドにおいて、阿波藍を活用した商品の検討が進められているほか、展示会を機に参加各事業者では商談が進んでいる。 また、メディア・バイヤー招聘については、英テキスタイル専門雑誌とフランスのデザイナー兼バイヤーを招聘した。テキスタイル雑誌では平成30年3月に阿波藍を中心とした特集が組まれる予定となっている。また、フランスのデザイナー兼バイヤーは次年度の展示会に向け、製品の検討を進めている。		発展	地域資源について、歴史や文化的な背景、地域資源活用に取り組む事業者が有する特有の技術や新たな活用などについての情報発信等を行い、地域資源を活用した商品の増及び地域資源のブランド力の強化、知名度向上を目指す。		非常に効果的であった
とくしま地域資源活用支援事業 (施策8-2 地域産業の振興)							
農工商連携等支援事業 (施策8-1 農林水産業の振興)		食藍の活用方法を提案。店舗等での販売には至っていないが、イベントにてメニュー開発を実施した。		継続	今後は実際に販売可能な商品開発を念頭に、事業を実施する。		非常に効果的であった
地域資源を活用し、農工商連携及び6次産業化を推進するため、高収益作物を活用した商品開発を行うための支援等を行う。							

<p>地域産業の首都圏・海外市場等の販路拡大支援</p>	<p>首都圏の加工食品のテストマーケティングには、想定していた募集数を上回る応募があり、消費者モニタリングを経て選考を行った結果、15品をテスト販売、10品程度をシェフ等への提案を行う予定である。参加事業者については委託事業者からのアドバイスを基に改良に取り組んでおり、選外となった事業者からも委託事業者からのアドバイスは好評であった。</p> <p>専門家の知見活用のため、販路コーディネータとの専門家マッチングを行ったが、応募が想定数を下回った。28年度、専門家への委託料補助がもっとも活用の多かった補助メニューであったこと等から考えて、専門家活用については二極化が進んでいることがわかった。今後は、未活用の事業者等への意識啓発等について行いたい。</p> <p>補助金の活用については、件数が減少した。補助上限の引き下げや利用の多かった専門家活用に対する補助をマッチング対象者のみに限定したこと等によるものと考えられる。</p>	<p>見直し</p>	<p>中小企業者の課題解決に資する事業内容とするため、補助内容等の見直しを図るとともに、引き続き、中小企業者が専門家の知見を効率的に取り入れ、活用する機会の創出に努める。</p> <p>また、首都圏での加工食品のテストマーケティング結果をもとに、加工食品の販路拡大に係る課題解決に資する事業を行う。</p>	<p>相当程度効果があった</p>
<p>とくしま食材ブランド化推進事業（施策8-1農林水産業の振興）</p> <p>徳島市産農林水産物の価値や魅力を情報発信し、知名度や信頼性を高めてブランド化を推進するPR活動を行い、首都圏等大規模市場での販路拡大を図る。</p>	<p>飲食店等食関連事業者への積極的なアプローチ等を強化することにより、取り扱い店舗数の増加が目標値よりも上回る予定。</p>	<p>発展</p>	<p>目標の達成に向けて、引き続き効果的な情報発信に取り組みつつ、地域食材等の購入や販売ニーズが高い消費者や飲食店等食関連事業者へのアプローチを図り、新たな顧客の獲得を図りたい。</p>	<p>非常に効果的であった</p>
<p>地域産業の域内消費の拡大に向けた情報発信等</p> <p>地産地消推進事業（施策8-1農林水産業の振興）</p> <p>地元産農林水産物の良さや魅力をPRし、地産地消を推進するとともに、地元産食材の利用拡大を図る。</p>	<p>今年度新たにスタンプラリーを実施したことにより、「とくしまIPPIN店」の認知度向上が図られるとともに、各店舗への来客者数、売上金額、食材フェア来場者数、食材フェア売上等が増加するなどの効果が得られ、地産地消の一層の推進につながった。</p> <p>しかし、実施期間が短かったことやスタンプカードのマス数が多すぎたなどの問題点が判明しており、今後はこれらの問題点を改善していく必要がある。</p>	<p>発展</p>	<p>本事業は、地産地消の推進に効果的な事業であると考えているため、問題点を改善することにより、発展させていきたい。</p>	<p>相当程度効果があった</p>

平成29年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 2

事業の名称	賑わいコンパクトシティ形成事業					
事業の概要	「都市ブランドの向上」、「集約型都市構造の形成」に取り組むとともに、「地域の特性を活かした魅力的なまちづくり」を一体となって実施することにより、「都市のにぎわい再生」と「コンパクトなまちづくり」を推進する。	総合戦略基本目標	県外への人口流出に歯止め ⇒ 社会増の実現 (H31)	実績値 (H28末)	実績値 (H29)	目標値
				+74人	計測中	増加(H31末)
事業期間	平成28年9月～平成31年3月	KPI(重要業績評価指標)	徳島市人口の県外との社会増減数	-635人	計測中	-686人(H30末)
事業費	38,726千円					
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)		取組の成果・課題		今後の方向性		効果
都市ブランドの向上		水都とくしまの魅力発信のための動画の制作や、WEBサイト、トクシィの活動を通じた情報発信を行い、本市の様々な地域資源の魅力を市内外に向けて発信し、本市の認知度向上を図った。		継続	引き続き、本市の魅力を市内外に発信するため、戦略的な情報発信を行っていく。次年度は、増加する外国人観光客に向けた取り組みを強化し、認知度の向上を図りたい。	非常に効果的であった
水都・とくしま魅力発信事業 (施策7-1 都市ブランドの創出) 交流人口の増加による地域の活性化や、市民の愛着度の向上を目指して、阿波おどりや豊かな水辺環境、文化、歴史、特に世界から注目を集めている「阿波藍」など、本市の地域資源の魅力を市内外に発信する。						
集約型都市構造の形成		立地適正化計画の策定にあたり、必要な基礎情報の収集、都市構造の分析及び課題の抽出を行い、まちづくりの方針、誘導区域の設定方針等を検討した。		継続	平成30年度には、地域住民及び関係団体との意見交換を行いながら、具体的な誘導区域、誘導施設・施策を検討し、集約型都市構造の形成に向けた立地適正化計画の策定を目指す。	相当程度効果があった
立地適正化計画作成事業 (施策7-2 計画的な都市づくりの推進) 居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等の様々な都市機能を誘導することにより、都市機能を集約し、コンパクトな都市を形成するために、立地適正化計画を策定する。						

平成29年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 3

事業の名称	女性・若者活躍促進事業						
事業の概要	女性や若者を中心とした雇用の創出に向けて、女性や若者に力点を置いた就業・創業の支援をするために、女性や若者などの創業促進、若年者の正規雇用化促進、人材育成に取り組むことで、女性や若者の力を活かすことのできる仕組みを構築し、誰もが活躍できる活力ある徳島市の実現を図る。		実績値 (H28末)	実績値 (H29直近)	目標値		
		総合戦略基本目標	雇用創出数 5年間 (H27~H31) の累計で1,000人以上	422人	570人 (H29.12時点)	1,000人(H31末)	
		KPI (重要業績評価指標)	創業件数 (徳島市事業の活用者対象) (累計)	2件	16件 (H29.12時点)	18件(H30末)	
正規雇用化者数 (徳島市事業の活用者対象) (累計)	1人		12人 (H29.12時点)	45人(H30末)			
事業期間	平成28年9月~平成31年3月						
事業費	8,697千円						
		ワークライフバランス推進に取り組む企業数 (累計)	未実施	8社 (H29.12時点)	20社(H30末)		
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)		取組の成果・課題		今後の方向性		効果	
女性・若者等の就業・創業促進		平成28年10月から事業を実施したが、事業の広報が創業者や創業支援事業者に浸透したため、平成29年度の女性・若者等の件数が14件と増加している。		継続	本事業の広報の浸透により、女性・若者等の創業者が増加しているため、さらに女性・若者の創業者支援に取り組んでいく。		非常に効果的であった
創業促進事業 (施策8-2 地域産業の振興)							
創業支援事業者 (商工団体、金融機関等) と連携し、創業支援相談会、出張講座、セミナー等を実施するとともに、創業予定者、創業後間もない事業者等を対象に、創業に要する経費、または、事業の発展に要する経費の一部を補助する。							
若年非正規労働者正規化促進事業 (施策8-4 働く環境づくりの推進)		平成28年10月から事業を実施したが、申請要件に合わず、実績は1件であった。平成29年度から申請要件を緩和し、広報に努めた結果、11件の実績があった。現在は、予算額に達したため事業を終了している。		見直し	年度の途中で予算額に達したため、年間を通して事業を実施できるよう、募集期間を設ける等の見直しを図る。		非常に効果的であった
ワークライフバランス推進事業 (施策8-4 働く環境づくりの推進)		市の広報だけでなく、関係団体に、事業の周知について協力を依頼し、現在8社が申請している。		継続	企業のニーズが高い効果的な事業であると考えているため、継続して実施していく。		非常に効果的であった
労働力不足が顕在化している中で、労働者の生産性向上が求められ、女性、若者、高齢者、障害者等のワークライフバランスの向上 (仕事と生活の調和) を図ることを支援し、優秀な人材の確保、生産性の向上に繋げる。							

若者の人材育成				
市高生次世代プロデュース事業 (施策1-2 学校教育の充実)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携教育の推進 地域の魅力を再発見するため各分野の外部講師を招聘し、総合的学習の教育講演等を実施した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携教育の推進 本事業は、生徒の地域理解力・企画立案力・協働実践力を養成できる効果的な事業と考えている。このため、歴史・教育・地域社会・技・自然・食と健康の各分野で徳島市の魅力を再発見する、総合的学習の教育講演等を増やしていきたいと考えている。 	
<p>市高レインボウプラン（IRP）の再編と拡大…地域理解力・企画立案力・協働実践力を養成する。</p> <p>高大連携（京大・徳大を中心に）に基づく教育を展開し、地域創生、国際理解への取組を通じた課題解決能力の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> また、市高フォーラムとして、デジタルコンテンツを活用し、あらたなメディアを創出している徳島出身の藤田恭嗣さんを招き、地域とメディア、さらには教育をどうつないでいくかについて、生徒と討論、情報や意見交換をすることができ、次世代の徳島市を担う人材の育成が図れた。 ・国際連携教育の推進 H29.5月に台湾國立潮州高級中學訪日教育旅行団の訪問があり、姉妹校締結調印を行い、東アジアの歴史研究などの交流を実施した。 また、徳島大学異文化交流事業に参加し、徳島大学への留学生とともに地域をフィールドワークし、地域行事に参加するなど、英語をツールとしたグローバル人材の育成が図れた。 	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・国際連携教育の推進 徳島大学異文化交流事業への継続参加、H30.10月来校予定のドイツヘルベルトギムナジウム高生との交流や台湾との東アジアの歴史研究などの交流により生徒の国際理解度の向上とともに、英語のみならず、多言語に対応できるグローバル人材の育成を図ってっていくもの。 	非常に効果的であった

平成29年度地方創生推進交付金事業 評価シートNo. 4

事業の名称	四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略					
事業の概要	徳島市が県等と一層連携し、国内外からの観光客拡大に向けた取組を推進するとともに、将来的に徳島東部地域DMOを設立し、広域かつ戦略的に観光振興等に取り組むことで、交流人口の増加や圏域の活性化を図る。	総合戦略基本目標	県外への人口流出に歯止め ⇒ 社会増の実現 (H31)	実績値 (H28末)	実績値 (H29直近)	目標値 (H31末)
				+74人	計測中	増加
事業期間	平成29年4月～平成33年3月	KPI(重要業績評価指標)	観光客入込数	215万人	183.6万人 (H29.12時点)	230万人
事業費	7,500千円					
取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)		取組の成果・課題		今後の方向性		効果
外国人観光客倍増等に向けた誘客促進事業				見直し	平成30年度に施行される住宅宿泊事業法による民泊の普及を促進し、徳島市阿波おどり期間中の宿泊施設不足の解消等に引き続き努めた。	非常に効果的であった
イベント民泊実施事業 (施策7-3 観光・交流の促進) 阿波おどり期間中の宿泊施設が不足する時期に、イベント民泊を実施し、観光客の受入環境の整備を図る。 【イベント民泊】 イベント開催時に自治体の要請等により自宅を旅行者に提供すること。		徳島市阿波おどりの開催にあわせて8月11日から16日までの間実施。自宅提供者数31件、延べ宿泊者数273人の実績があり、宿泊施設不足対策と観光消費や阿波おどり観覧者の増加面で一定の効果があつた。				
インバウンド対応事業 (施策7-3 観光・交流の促進) 外国人観光客をはじめ国内外からの観光誘客を促進するため、県等と連携して、徳島市に寄港する客船の歓迎、キャンペーン等を行う。		本市に入港した2隻の大型客船に対して埠頭での歓迎セレモニーや阿波おどり演舞などを行い、乗船客に対するおもてなしと本市の観光の魅力発信を行った。		継続	今後も引き続き、本市に入港する大型客船への阿波おどり演舞等によるおもてなしを行う。	非常に効果的であった
着地型・体験型旅行商品開発促進事業				継続	平成30年4月に徳島東部地域DMOを設立し、広域かつ戦略的に観光振興等に取り組み、交流人口の増加や圏域の活性化を図る。	非常に効果的であった
DMO設立事業 (施策7-3 観光・交流の促進) 地域と協同しながら観光地づくりなどの観光振興全般にわたる業務を担うDMOを官民一体となって設立する。 【DMO】 観光地域づくりの舵取り役を担う法人。		徳島東部地域DMOの設立に向け、観光実態調査、事業計画の策定、組織設計等を実施。				

地方創生関係交付金事業の事前評価・意見 No. 1

事業の名称	とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略	
評価	意見	
本事業が相当程度有効であった	<p>順調に進んでいるものが多く、今後の発展も見込まれることから、有効であったと思われる。 目標値の達成に主眼を置くのではなく、その先の満足度や認知度の向上、所得増加といった経済効果や波及効果を見据える必要がある。</p>	
本事業が相当程度有効であった	<p>本事業は、KPIが基本目標達成に向けて順調に推移しているため、相当程度有効であったといえる。特に、農商工業連携事業の藍食に関しては徳島県内でも関心の高い事柄の1つであろう。徳島県全体のアイデンティティの1つである藍産業を徳島市が率先して発展させるためにも、今後も継続、拡充に努められると良いと考える。</p>	
本事業が相当程度有効であった	<p>高付加価値商品を2年間度30商品にすることは目標値としては高すぎないか。</p>	
本事業が相当程度有効であった	<p>基本目標については、順調に推移しているが、地域資源活用高付加価値商品数と補助金等を利用して販路拡大に結び付いた事業者数については進展していないので相当程度有効とした。</p>	
本事業が有効であった	<p>農商工連携による商品開発、徳島市産食材の取扱店など、着実に実績値が上がっていることから、事業は有効であったと考える。 藍をはじめとする地域資源のブランディングにおいては、統一されたネーミングやパッケージ、デザイン性、インスタ映えする外観など、素材にプラスする部分の仕掛けが成功のカギを握るところが大きい。その意味から、今後はこの事業に対する総合的なプロデュース力が求められる。 徳島市産の食材取扱店は着実に増加していることから、より一層の浸透を図るために思い切ったPR活動（キャンペーン）を仕掛けてはどうだろうか。例えば、毎月〇〇日は「△△の日」のように、その日はどの店舗も（取扱店舗のみならず多くの店舗に参加して頂き）一定の食材、あるいは同一のメニューを同一価格で提供する日を設け、お客様のSNSを通じた発信拡散効果を狙う仕掛けも面白いのではないか。 いずれにせよ、全国各地が「地ブランド」の構築に注力している中で、一歩抜け出す工夫を見つけなければならない。</p>	
本事業が有効であった	<p>本事業は、一部KPIが未達成であるものの、概ねKPIが達成できており、有効であったと言える。一方で、基本目標の達成に対しては、一層の努力が必要と言える。 特に「とくしま地域資源活用支援事業」は、基本目標の達成に効果的であると考えられるが、付加価値商品の開発がゼロ件とKPIが伸び悩んでいる。 単なる藍製品ではなく、デザイナーとのコラボレーションによって産まれる高付加価値商品の創出が望まれる。</p>	
本事業が有効であった	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源活用高付加価値商品が実施できていない。コメントも見られない。 ・販路拡大店舗数がH28より減少している。 	

地方創生関係交付金事業の事前評価・意見 No. 2

事業の名称	賑わいコンパクトシティ形成事業	
評価	意見	
本事業が相当程度有効であった	本事業は、KPIが基本目標達成に向けて順調に推移しているため、相当程度有効であったといえる。特に、水都とくしま魅力発信事業は、市内外の住民が地域の歴史・文化等の地域資源を確認していくことで、愛着が生まれる有用な事業であると考え。徳島市の人口流出に歯止めをさせ、地域を発展させていくためにも、今後も継続、拡充に努められると良いと考える。	
本事業が相当程度有効であった	「都市ブランドの向上」「にぎわい再生」を目標として人口の社会増減数を用いているが、他にも指標として適切なものがあるのではないかと。	
本事業が有効であった	動画制作やWEBサイトを通じた情報発信を実施したことは効果的だったと考えるが、アクセス数など具体的に情報発信度を評価する数値が表記されていない。また、今後の方向性の中で「戦略的な情報発信を行っていく」とあるが、具体的な到達目標、ゴールのイメージを明確にする必要がある。 都市のブランドは、認知度を基本として、訪問・購買・居住・他者への推奨等の意向を分析し、具体策を講じなければならぬ。「阿波藍」は十分に魅力ある素材であるが、県や他の町（例えば藍住や上板など）もアピールしている「阿波藍」の魅力と、どのように連携するのかあるいは差別化するのかを考えることが大切ではないだろうか。	
本事業が有効であった	本事業での取り組みにより、基本目標やKPIの達成が直接的に図れるのか？検討が必要ではないかと。 “県の顔”として、中心市街地等の機能強化に継続して取り組んで欲しい。	
本事業が有効であった	基本目標及びkpiともに計測中とのことなので、希望的な意味も込めて有効であったとした。	
本事業が有効であった	<ul style="list-style-type: none"> ・この2つの取り組みが人口の社会増に結びつく、政策シナリオについて、今一度説明願いたい。 ・現在の事業は現居住者の愛着、暮らしやすさの向上が主体となっている。県外者への周知はどうなっているのか？周知活動の成果を確認するのはどのようにしているのか？ 	
本事業が有効ではなかった	本事業は、事業のKPIは計測中であるものの、昨年度実績からは、一定の効果は出ていると考える。 この点、立地適正化計画作成事業は、取組内容も基本目標の方向性に合致しており、基本目標の達成にとっても効果的であると考えられ、今後も継続して計画の策定に努められると良いと考える。そのため、適正化計画の方針等を可能な限り早急に、具体的に策定して頂きたい。	

地方創生関係交付金事業の事前評価・意見 No. 3

事業の名称	女性・若者活躍促進事業	
評価	意見	
本事業が非常に有効であった	働き手が不足する中、重要な事業であり、一定の成果も見られることから、有効であったと思われる。世の中の流れにおいて、WLBの実現は必須であり、目標値30社では少なすぎるように思う。	
本事業が相当程度有効であった	<p>創業件数、正規雇用化者数、ワークライフバランスに取り組む企業数ともに増加していることから、一定の効果を認められる。</p> <p>創業については、多様な働き方の一つのスタイルの実現であるが、創業後は事業の継続性と収益の確保という問題がある。創業者の追跡フォローアップも必要ではないだろうか。また、ワークライフバランスの実現に際しては、働く側と企業側双方の意識改革や制度の整備が必要であるとともに、成功事例となるモデルケースを発信していくことにより、未取組みの事業者に対しての啓発が進むと考える。</p>	
本事業が相当程度有効であった	正規雇用者数70は目標として高すぎるのでは。	
本事業が相当程度有効であった	基本目標、KPIともに順調に推移しているので相当程度有効とした。	
本事業が相当程度有効であった	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの取り組みで実績値が上がっている点は評価できる。 ・女性、若者に関するKPIが見られず、意図した効果がでていないのかは不明である。 	
本事業が有効であった	<p>本事業は、一部KPIが未達成であるものの、概ねKPIが達成できており、有効であったと言える。</p> <p>ただし、雇用創出という観点からは、企業誘致や女性の再就職支援などは、数年前（H27年）と比較して、KPIの伸び率が落ちているため、基本目標の達成に対しては、一層の努力が必要と言える。</p>	
本事業が有効であった	<p>本事業は、KPIがある程度伸びており、基本目標達成に向けて推移しているため、有効であったと言える。特に、若年非正規労働者正規化促進事業については、申請用件の緩和などにより平成28年度の実績に比べて順調に伸びているおり、基本目標の達成にとっても効果的であると考え。今後も継続、拡充に努められると良いと考える。</p>	

地方創生関係交付金事業の事前評価・意見 No. 4

事業の名称	四国のゲートウェイを起点とした「おどる宝島★とくしま観光・文化プログラム」発信戦略	
評価	意見	
本事業が非常に有効であった	本事業は、KPIが基本目標達成に向けて順調に推移しているため、相当程度有効であったといえる。特に、外国人観光客倍増などに向けた誘客促進事業は、基本目標の達成にとっても効果的であると考えられ、今後も継続して実施、拡充に努められるとよいと考える。	
本事業が相当程度有効であった	本事業は有効であったと思われる。特に観光面では、今後DMOが果たす役割が大きくなると考えられることから、DMO設立後の活躍を期待している。	
本事業が相当程度有効であった	本事業は、事業のKPIが概ね達成できており、基本目標も達成に向けて順調に推移していると考えられるため、有効であったと言える。阿波おどりに期間中に徳島へ観光に来ている人数に比較して、宿泊施設が不足していると考えられる。イベント民泊実施事業については、自宅提供者が31件であるため、供給量を増加させ、観光客が宿泊することにより、滞在時間を延ばすことで、観光振興をさらに向上することができるため、今後の事業の遂行に期待したい。	
本事業が相当程度有効であった	阿波踊り期間だけでなく年間を通じての宿泊者増のために、民泊を進める方向で政策を進めるべきでは。	
本事業が有効であった	観光施策を推進する上でDMOが設立されたことは効果的である。今後は具体的な事業設計に主導的な役割を發揮し、誘客効果を高めることを期待したい。イベント民泊については、地域や住民の理解をはじめ制度面の整備が待たれるが、JCが行った阿波踊りキャンプのような方法を市として連携推進することも検討すればどうか。また、徳島空港に国際線ターミナルが開設されたこともあり、空路で徳島入りしたインバウンドに対するアプローチについても積極的に検討し、徳島へのリピーター確保につなげる必要がある。	
本事業が有効であった	基本目標が計測中で、KPIもH29.12時点の数値であり、比較が難しい。一応、有効であったとした。	
本事業が有効であった	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客の指標がなく、効果が不明。外国人訪問者数に関する数値を把握すべき。 ・体験型旅行商品の開発について、DMO設立しか書かれていないが、旅行商品の検討がなされているのか不明。具体的な取り組みの記述が必要。 	